

[野菜部門 令和8年度 参考となる研究成果]

事項名	いちご促成栽培で「よつぼし」の種子苗に由来するランナー苗を利用する方法																							
ねらい	「よつぼし」は、種子繁殖型品種であるが、定植する当年に播種した種子苗から発生するランナー苗を利用することもできる。そこで、種子苗に由来するランナー苗の利用方法と作型を明らかにしたので参考に供する。																							
内容	<p>1 ランナー苗の利用方法と作型（表1、2）</p> <table border="1" data-bbox="368 488 1412 804"> <thead> <tr> <th>収量性の特徴</th> <th>早期収量確保</th> <th>果実サイズ重視</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>播種時期</td> <td>4月上旬～5月上旬</td> <td>5月下旬～6月上旬</td> </tr> <tr> <td>鉢上げ時期 (プラグ苗の購入)</td> <td>5月上旬～6月中旬</td> <td>6月下旬～7月中旬</td> </tr> <tr> <td>採苗時期</td> <td>7月上旬～8月上旬</td> <td>9月中旬</td> </tr> <tr> <td>定植時期</td> <td>9月中旬～9月下旬</td> <td>10月上旬～10月中旬</td> </tr> <tr> <td>収穫開始時期</td> <td>12月～</td> <td>2月～</td> </tr> <tr> <td>目標とする苗質</td> <td colspan="2">定植時のクラウン径 8～10mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 早期収量とは収穫開始から2月末までの収量</p> <p>2 種子苗に由来するランナー苗の特徴</p> <p>(1) 開花特性及び収穫開始時期（表3、図1） ランナー苗は、由来する種子苗の播種時期が早いほど開花が早くなり、花芽分化確認後に定植することで開花時期がそろふ。一方、播種時期が遅くなると種子苗よりも開花が16～33日程度遅れ、収穫が19～33日程度遅くなる。</p> <p>(2) 生育（図2） 定植時のクラウン径は、苗の由来によらず8～10mm程度で大きな差はないが、開花期になると、ランナー苗の方が大きく成長する。</p> <p>(3) 収量性と果実品質（表1、2） ランナー苗の可販果収量は、種子苗とほぼ同等である。可販果率は、播種時期及び苗の由来にかかわらず種子苗とほぼ同等である。平均一果重は、種子苗と比較してランナー苗で重く、果実サイズが大きくなる。</p>			収量性の特徴	早期収量確保	果実サイズ重視	播種時期	4月上旬～5月上旬	5月下旬～6月上旬	鉢上げ時期 (プラグ苗の購入)	5月上旬～6月中旬	6月下旬～7月中旬	採苗時期	7月上旬～8月上旬	9月中旬	定植時期	9月中旬～9月下旬	10月上旬～10月中旬	収穫開始時期	12月～	2月～	目標とする苗質	定植時のクラウン径 8～10mm	
収量性の特徴	早期収量確保	果実サイズ重視																						
播種時期	4月上旬～5月上旬	5月下旬～6月上旬																						
鉢上げ時期 (プラグ苗の購入)	5月上旬～6月中旬	6月下旬～7月中旬																						
採苗時期	7月上旬～8月上旬	9月中旬																						
定植時期	9月中旬～9月下旬	10月上旬～10月中旬																						
収穫開始時期	12月～	2月～																						
目標とする苗質	定植時のクラウン径 8～10mm																							
期待される効果	促成栽培いちごの安定生産に寄与する。																							
利用上の注意事項	<p>1 本データは、当年に播種した種子苗に由来するランナー苗を用いた結果である。</p> <p>2 種子若しくはランナーで前年に増殖した苗から採苗すると、採苗期間中に心止まりが発生し、増殖率が極めて低くなり、作業効率が大幅に低下するため利用しない。</p> <p>3 育苗及び定植後の栽培管理の共通事項は、令和6年度参考となる研究成果「いちご品種「よつぼし」の県内における促成栽培の方法と収量性」を参考にする。</p>																							
問合せ先 (電話番号)	農林総合研究所 花き・園芸部 (0172-52-4341)	対象地域 及び経営体	県内全域の冬春いちご 作付経営体																					
発表文献等	令和5年～7年度 農林総合研究所試験成績概要集																							

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 播種時期及び苗由来の違いによる一斉定植での収量性

(令和 5 年 青森農総研)

播種 (令和4年)	鉢上げ (令和4年)	苗の 由来	全果収量 (g/株)										単収 (t/10a)	平均一果重 (g/個)
			令和4年		令和5年						早期	合計		
			11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月				
3/28	5/12	種子	3	34	31	102	175	178	106	95	170	724	4.29	9.5
		ランナー	0	12	48	42	231	239	206	66	102	844	5.00	10.5
4/28	6/10	種子	8	21	41	64	177	183	140	121	134	755	4.47	10.4
		ランナー	0	4	27	35	216	208	159	84	67	734	4.35	10.2
5/24	6/29	種子	0	27	68	87	196	216	150	104	182	848	5.03	9.4

播種 (令和4年)	鉢上げ (令和4年)	苗の 由来	可販果収量 (g/株)										単収 (t/10a)	可販果率 (重量集計)
			令和4年		令和5年						早期	合計		
			11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月				
3/28	5/12	種子	3	34	21	77	143	155	95	76	135	604	3.58	83.4%
		ランナー	0	12	42	26	191	204	180	57	80	712	4.22	84.3%
4/28	6/10	種子	7	19	31	44	149	169	127	98	102	645	3.82	85.5%
		ランナー	0	4	25	27	179	173	135	73	56	616	3.65	83.9%
5/24	6/29	種子	0	27	57	66	170	184	125	78	150	706	4.18	83.2%

(注) 各区花芽分化を確認後、令和4年9月19日に定植。可販果は、鶏冠果等を除く奇形果及び6g未満の全果実を除外して集計した。早期収量は収穫開始～2月末までの収量。

表 2 播種時期及び苗由来の違いによる収量と平均一果重

(令和 7 年 青森農総研)

播種 (令和6年)	鉢上げ 鉢受け	定植	苗の 由来	全果平均一果重 (g/個)						平均	標準 偏差	果数 (個/株)
				令和6年		令和7年						
				12月	1月	2月	3月	4月	5月			
4/4	5/12	9/24	種子	14.3	9.5	9.2	7.7	8.1	7.1	8.3	4.6	97.3
	7/3	9/24	ランナー	15.8	9.9	11.9	8.6	9.7	7.0	9.3	5.3	69.1
5/9	6/13	9/25	種子	14.9	9.4	12.4	8.9	8.9	7.9	9.3	5.2	68.0
	8/6	9/30	ランナー	18.7	15.9	12.2	10.2	9.9	8.2	10.0	5.4	62.1
5/29	6/28	10/2	種子	14.9	12.1	11.4	9.5	9.7	7.6	9.4	5.2	66.3
	9/12	10/10	ランナー	-	-	14.8	11.3	11.7	8.8	10.8	6.6	49.3
6/13	7/17	10/2	種子	-	16.1	13.3	10.8	10.7	8.1	10.4	5.9	56.6
	9/12	10/18	ランナー	-	-	16.7	11.4	12.1	8.9	10.9	5.8	46.8

播種 (令和6年)	鉢上げ 鉢受け	定植	苗の 由来	全果収量 (g/株)										単収 (t/10a)
				令和6年		令和7年						早期	合計	
				12月	1月	2月	3月	4月	5月					
4/4	5/12	9/24	種子	30	112	136	193	198	138	278	777	4.61		
	7/3	9/24	ランナー	22	45	93	190	210	82	159	620	3.67		
5/9	6/13	9/25	種子	17	35	110	207	157	106	162	615	3.64		
	8/6	9/30	ランナー	2	22	80	184	205	125	104	617	3.65		
5/29	6/28	10/2	種子	1	36	68	203	195	120	105	622	3.68		
	9/12	10/10	ランナー	0	0	48	122	203	159	48	531	3.15		
6/13	7/17	10/2	種子	0	17	67	207	181	117	85	590	3.50		
	9/12	10/18	ランナー	0	0	24	111	215	160	24	510	3.02		

(注) 各区花芽分化を確認後、速やかに定植した。早期収量は収穫開始～2月末までの収量。

表3 播種日と苗の由来の違いが開花及び収穫株率に及ぼす影響

(令和7年 青森農総研)

播種日	開花始期 (50%の株で開花)			収穫始期 (50%の株で収穫)		
	種子	ランナー	差 (日数)	種子	ランナー	差 (日数)
4月4日	10月29日	10月29日	0	12月16日	12月19日	3
5月9日	11月1日	11月17日	16	12月24日	1月26日	33
5月29日	11月11日	12月14日	33	1月12日	2月14日	33
6月13日	11月26日	12月28日	32	2月2日	2月21日	19

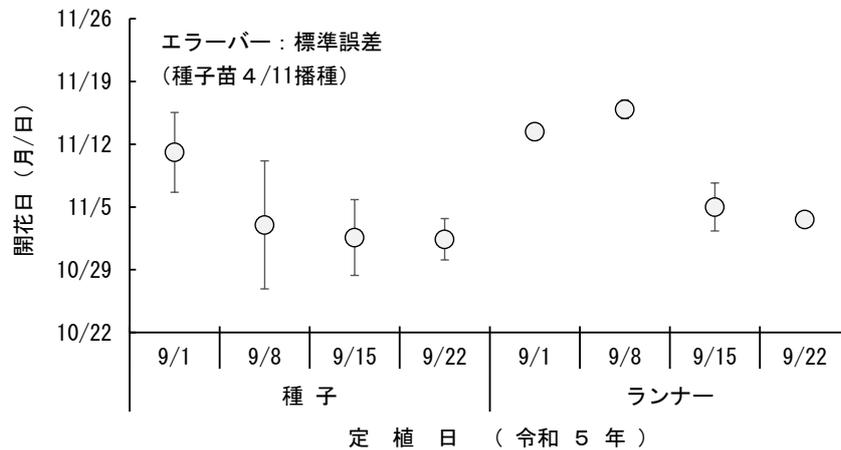


図1 苗の由来と定植日の違いが開花日に及ぼす影響 (令和6年 青森農総研)

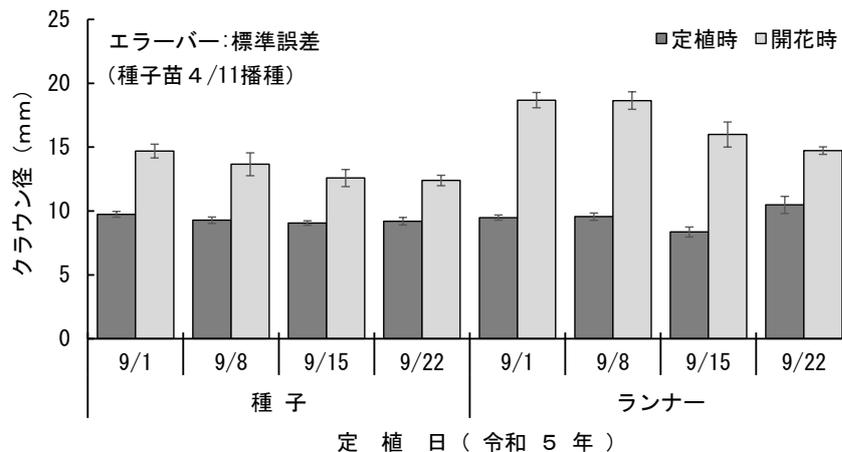


図2 苗の由来と定植日の違いがクラウン径に及ぼす影響 (令和6年 青森農総研)

**【耕種概要】**

**播種及び育苗** 種子苗: 令和4年は、406穴プラグ苗を購入。令和6年は、農林総合研究所内で播種。  
 ランナー苗: 各播種日の種子苗から発生したランナーを適宜鉢受けして育苗した。  
 種子苗から発生したランナーを採苗。  
 ポット: 令和4年は、すくすくカップ、令和6年は、9cm黒ポリポットを使用。  
 施肥: 無肥料培地を用い、タンクミックスF&BをEC0.4mS/cm(原水除く)の濃度で週3回程度頭上かん水により施用。

**定植** 令和4年: 各区花芽分化を確認後、令和4年9月19日に定植。  
 令和6年: 各区花芽分化を確認後、令和6年9月24日から10月18日に定植。

**栽培管理** 場所: 農林総合研究所(黒石市、標高約30m)。  
 栽植様式: 土耕栽培、株数約5,925株/10a。  
 温度管理: ハウス内最低気温3℃、最低地温13℃に設定。